武道授業 実践の概要紹介 剣道

大分県津久見市における中学校武道必修化に向けた取組

津久見市教育委員会

津久見市教育委員会は、平成24年度から必修となった武道（剣道）の円滑な実施を図るため、地域の指導者の支援・協力を得ながら武道における指導の充実や指導者の育成を目指している。

1 はじめに

津久見市は大分県の南東部に位置し、人口は約2万人程度である。中学校は5校あり、そのうち3校は離島半島部のへき地校である。また、中学校の生徒数は、合計500人ほどである。

本市においては、平成20年度より学校支援地域本部事業の一環として、地域人材を有効に活用するために学習活動サポーターやゲストティーチャーとして学校教育に協力していただいている。

学習指導要領改訂により、教育課程では中学校保健体育科に武道が必修となるため、本市では剣道を必修科目として全中学校で取り組むこととした。現在、体育担当教員は中学校5校において剣道経験者の教員は1名であり、他の教員は剣道の経験者ではない。そのため本市全中学校の体育の授業における武道（剣道）の充実を図るためには、教員の資質向上を目指すとともに様々な取組が必要となる。

このような現状から、本市剣道連盟との連携を図り、体育担当教員の武道（剣道）の理論や実技等の専門性を養うための研修等を行い、武道（剣道）における指導の充実を図るための取組を全中学校共通して行うこととした。

本稿では市内中心部の中学校とへき地の中学校の2校の実践研究について報告する。

2 研究実践1 津久見市立第一中学校

Ⅰ. テーマ「地域の指導者と体育担当教員の連携の在り方」

Ⅱ. 研究概要

平成24年度より中学校保健体育科における武道が必修化となった。このことを踏まえて津久見市では、中学校5校統一して剣道を必修として取り組むこととした。

現在、本校では体育館の改修工事中であるため、体育館での体育授業を行うことができない状況にある。そのため近隣高校との連携を図り、体育授業では高校の体育館での授業を進めていくこととした。さらに、武道（剣道）の授業においては、剣道経験者である高校の体育教師に支援していただき、外部指導者と剣道経験者の知識と指導ノウハウを生かしながら、よりよい武道の授業を構築するための方策を研究した。

Ⅲ. 授業の様子

①【防具の装着（ペア活動）】

生徒にとっては、初めての経験であるので面のひもを一人で結ぶのが困難なため、二人組で協力して取り組んだ。

②【黙想（授業のはじめと終わりに実施）】

はじめの頃は正座が苦手な生徒が多かったが、回を重ねる毎に生徒の心が落ち着いてきた。

③【対人的練習①】

女子同士の練習（一本打ちの技）

④【対人的練習②】

男子同士の練習（一本打ちの技）

⑤【簡易試合】

3人組・4人組を作り簡易試合を行いました。声と正確な打突で勝負。

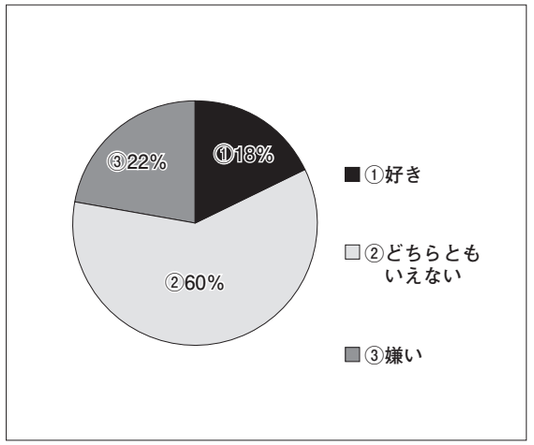
②【黙想（授業のはじめと終わりに実施）】

①【防具の装着（ペア活動）】

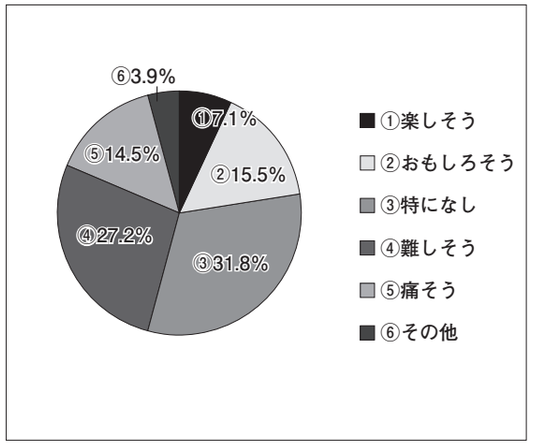
④【対人的練習②】

③【対人的練習①】

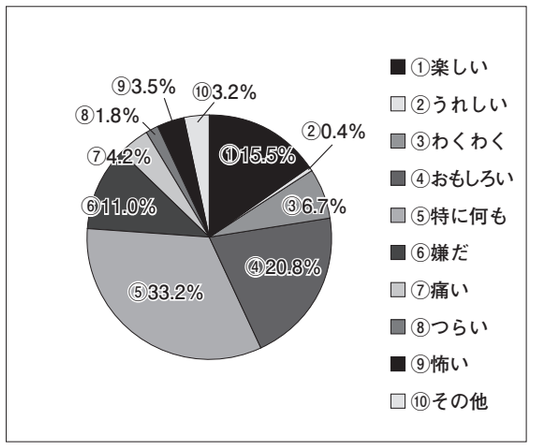
Ⅴ．資料（アンケート）



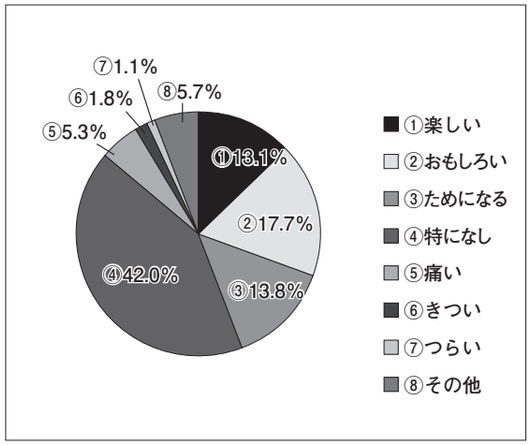
1．剣道が好きですか



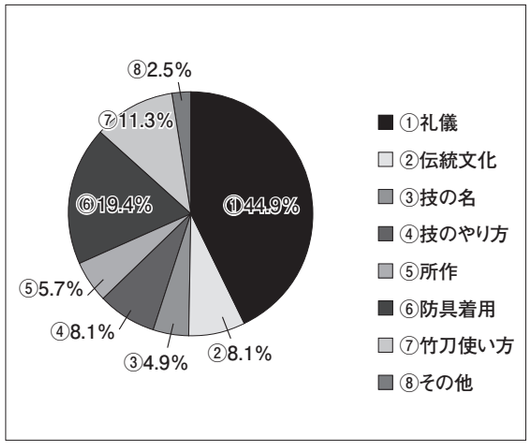
2．授業前の剣道に対するイメージ



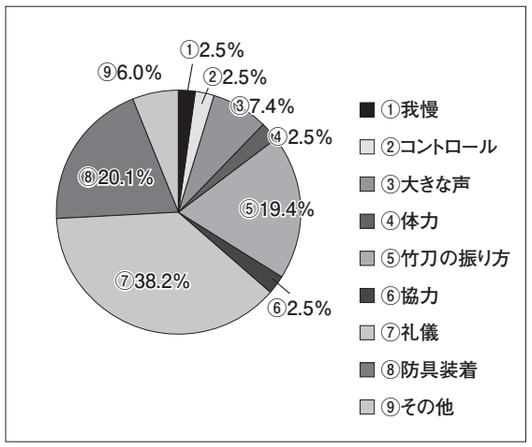
3．剣道を学習しているときの気持ち



4．剣道を学習しての感想



5．剣道を学習して学べたこと



6．どのような力がついたか

⑤【簡易試合】

Ⅳ．成果・感想

本事業による成果は、外部指導者との連携により、体育授業において外部指導者の指導や助言により剣道の本質、特性に触れることができたことである。中学校体育教員は剣道の経験がないので、日本の伝統文化である剣道の特性を生徒に十分理解させることに自信がなかったが、体育の授業（剣道）を通して外部指導者の説明や指導、支援により、剣道の本質に触れることができ、指導する側の教師も大変勉強になった。

また、武道（剣道）の礼法・所作を重んじることにより、礼儀正しい言動ができる生徒の育成に繋がるだろうと感じた。そして生徒は剣道の特性に触れ、防具を装着するなど、これまでに経験したことのない種目の武道（剣道）の授業を通し、成就感を味わうことができた。

また、生徒の多くは正座等を行うことにより、姿勢が良くなり、きちんとした武道（剣道）への取組ができるようになってきた。そして、落ち着いた雰囲気で授業が実施できるようになり礼儀などが身についてきた。

今後も外部指導者と連携しながら、剣道の授業を創造し、武道（剣道）授業の充実に向けての取組を推進していくことが重要だと思う。

3 研究実践2　津久見市立四浦東中学校

Ⅰ．本校の状況

⑴極少人数での授業実践

本校生徒は、1年・1名、2年・3名、3年・1名の計5名である。また、女子1名、男子4名という男女比である。生徒は、人なつっこく明るい性格で、運動経験は豊富で活発である。体育授業の種目では少人数であるため個人種目に限られる。

Ⅱ．研究内容

⑴指導の重点

①コミュニケーションを重視した指導

授業におけるペア学習等では、男女間・学年間のコミュニケーションを図りながら、生徒同士の教え合い学習を取り入れた授業を進めていく。

②教師の評価と生徒同士の関わり方

少人数であるため、個に応じた支援・指導を積極的に行い、評価することにより生徒の意欲化を図る。

⑵地域の指導者との連携

①津久見市剣道連盟との意見交換会を持ち、体育担当教員は指導の在り方について学び、授業改善に取り組む。

②武道（剣道）授業を行う前に剣道指導者講習会で指導方法について学び、円滑に授業が行えるようにする。

⑶安全指導

①準備運動や補強運動は生徒自ら積極的に行うことができるよう事前指導において安全面や準備運動の大切さを理解させ、実践する。

4 津久見市全中学校としての成果と課題

〈成果〉

○津久見市剣道連盟との連携を図ることができ、中学校体育における剣道指導法の充実に向けての取組が全中学校で図れた。

○体育担当教員が外部指導者の支援により武道（剣道）の指導方法を学ぶことで、授業改善を行うことができた。

○体育担当教員の指導力の向上が図られ、自信を持って剣道の指導に臨むことができた。

○生徒は授業を通して武道（剣道）の礼儀や作法を学び、相手を尊重する精神を養うことができた。

○年間指導計画や指導資料等の作成を通して学校間で情報を共有し、共通理解を図ることができた。

〈課題〉

●今後も武道（剣道）の授業を効果的に進める上では、外部指導者による武道（剣道）についての研修会等を定期的に実施する必要がある。

●武道（剣道）の授業方法だけでなく武道（剣道）の理念等についての知識を指導者が身につける必要がある。

●学校によっては冬の寒い時期に武道（剣道）の授業を行っていたが、効果的な授業を実施する上では時期を再検討する必要がある。

●用具の保管方法を再検討する必要がある（施設の整備）。

津久見市立保戸島中学校の授業風景

津久見市立第一中学校の授業風景

津久見市立保戸島中学校の授業風景

津久見市立第一中学校の授業風景

②剣道の授業については、礼儀作法を重んじ武道（剣道）の心得を身につけることを重視するとともに、安全面に配慮しながら取り組む。

Ⅲ. 授業の様子

【授業風景】生徒は初めて竹刀を手にした

【指導者】剣道三段の職員が指導した

【授業風景】構えがしっかりしてきた

【授業風景】礼儀を含め精神面の指導を重視した

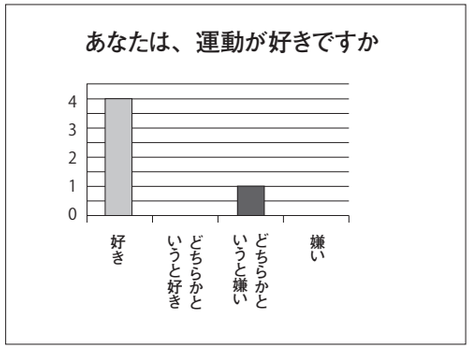
【授業風景】防具を着けた指導者に面を打たせた

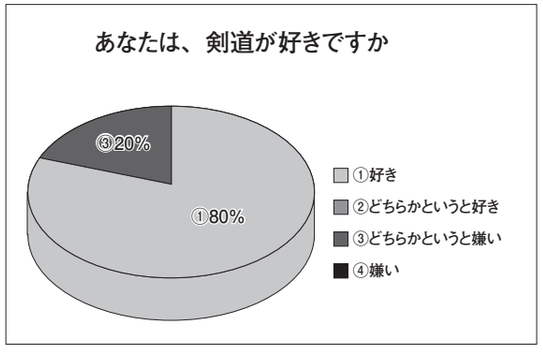
Ⅴ. 成果

①剣道では小集団で活動するので、安心感や信頼感などが高まった。また、練習をスムーズに始めることができ、反復練習も可能になった。

②剣道の授業を通して、挨拶の重要性や目上の人に対する言葉遣いなどを学ぶことができた。

Ⅳ. 資料（アンケート）





【生徒の意識調査】運動が好きな生徒は剣道の授業も好きなようです